



↑ 1 空から見た現在の鎌倉



2 切通し

山をけずって、外部との往来ができる細い道を造りました。



3 源 頼朝(1147～99) 〈甲斐善光寺蔵〉

頼朝が鎌倉に幕府を開いたのは、なぜかな。



66 ～ 67 - 1

第3章 中世の日本と世界

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

世紀▶	B	A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21			
縄文			弥生			古墳		飛鳥		奈良		平安			鎌倉	南北朝	室町	戦国	安土桃山	江戸		明治	大正	昭和	平成	令和

3

いざ鎌倉

武家政治の成立と展開

学習
課題



鎌倉を中心とした武家政権は、どのように
成立し、勢力を拡大したのでしょうか。

鎌倉幕府の成立

争乱の中、源頼朝³は、鎌倉^{1 2}

を拠点に政治のしくみを整えていき

ました。平氏の滅亡後に源義経と対立すると、

義経をとらえることを理由に、1185年に、国ごと

に守護を、荘園や公領ごとに地頭をおくことを

朝廷に認めさせました。その後、頼朝は、義経を

かくまったことを理由に奥州藤原氏^{←p.63}をほろぼ

し、1192年に朝廷から征夷大將軍^{←p.48}に任命され、

全国の武士を従える地位に就きました。鎌倉に成

立した武士の政権を鎌倉幕府といい、幕府が続いた

時代を鎌倉時代といいます¹。

幕府を支えたのは、將軍と、將軍に従う武士(御

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

家人)との結びつきでした。将軍は、御家人を守護
や地頭に任命して、先祖から引きついだ領地を保護
したり、新たな領地を与えたりしました(御恩)。御
家人は、将軍に忠誠を誓い、京都や鎌倉の警備に
就いたり、一族を率いて命がけて戦ったりしました
(奉公)。このように、土地を仲立ちとして主従関
係を結ぶしくみを封建制度といいます。

① 鎌倉幕府が成立した時期については、頼朝が朝廷から東日本の支配を認め
られた1183年や、守護・地頭をおいた1185年、頼朝が征夷大將軍に任じら
れた1192年など、諸説あります。

北条氏の 執権政治

頼朝の死後、有力な御家人の間で権
力争いが起こると、頼朝の妻の北
条政子と、その父の北条時政が、幕府の実権を
握りました。時政が、將軍を補佐する執権の地位に
就くと、その後も北条氏の一族が執権を独占する
ようになりました。源氏の將軍が3代で絶えた後は、
京都から貴族や皇族を將軍として迎え、それを補佐
する北条氏が、御家人をまとめて幕府の政治を動か

66 ~ 67 - 3

第3章 中世の日本と世界

38

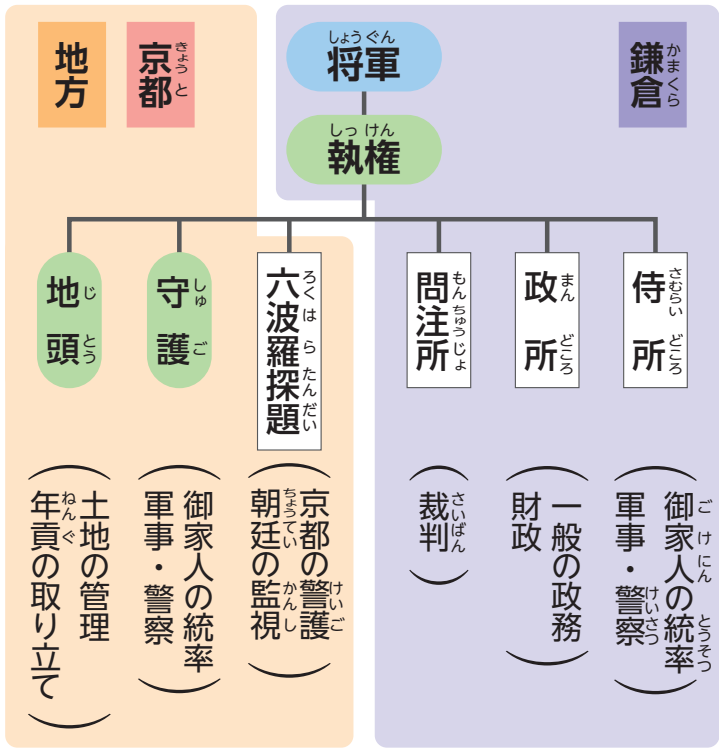
- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

しました。これを^{しっけん}執権政治といいます。

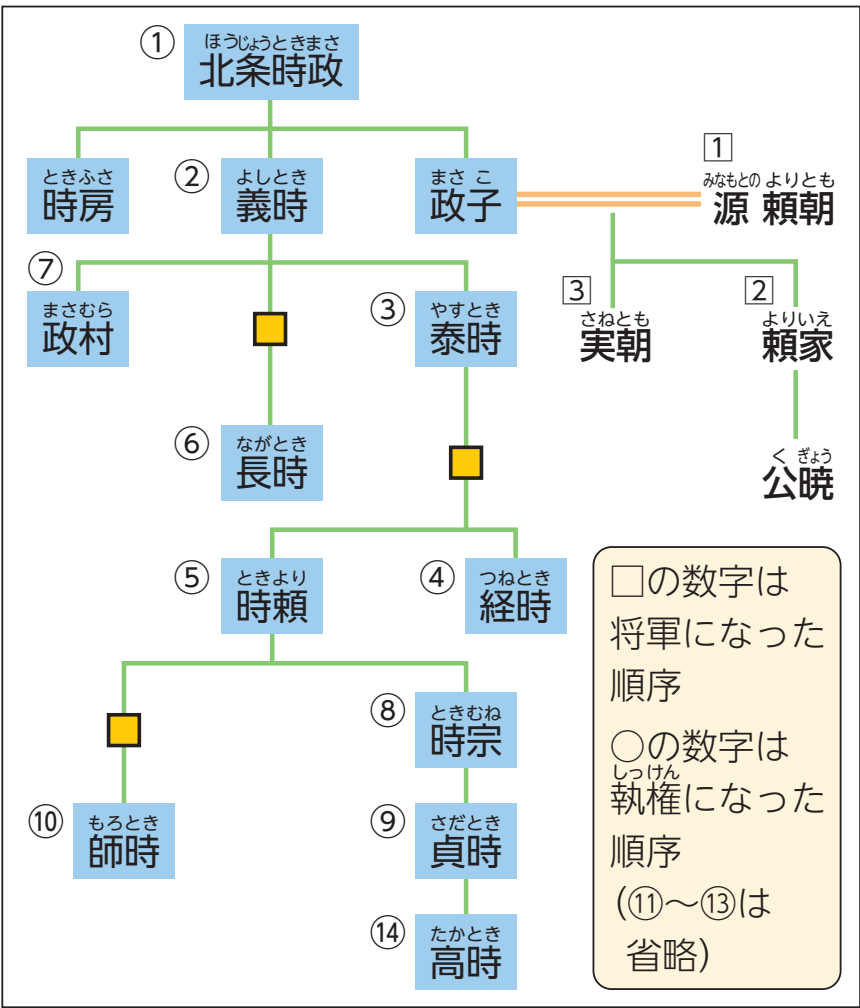
一方で、京都の^{ちょうてい}朝廷では^{いんせい}院政←p.64が^{こくし}続き、^{こくし}国司を任命していたほか、^{さいごく}西国では、^{しょうえん}荘園の領主である^{くげ}公家²や寺社が力をもっていました。朝廷の力を再び強めようとしていた^{ご と ば じょうこう}後鳥羽上皇は、^{げん じ}源氏の^{しょう}将^{ぐん}軍が絶えると、1221(^{じょうきゅう}承久3)年に、^{ばく ふ}幕府を倒そうと兵を挙げました。しかし、^{まさ こ}政子らを中心とする幕府は、^{とうごく}東国の^{ご け にん}御家人を結束させて⁸京都を^せ攻め、上皇の軍を破りました(^{らん}承久の乱⁶)。幕府は、上皇らを^{お き しま ね}隠岐(島根県)などに追放し、朝廷の^{かん し}監視を強めるために、京都に^{ろく は ら たんだい}六波羅探題をおきました⁴。上皇に味方した公家や西国の武士の土地を^{ぼっしゅう}没収し、御家人をその土地の^{じ とう}地頭に任命しました。こうして、幕府は西国にも勢力を^の伸ばし、支配を広げていきました。

² 将軍や上級武士を^{ぶ け}武家とよぶのに対して、朝廷の^{きぞく}貴族を^{く げ}公家とよびます。

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。



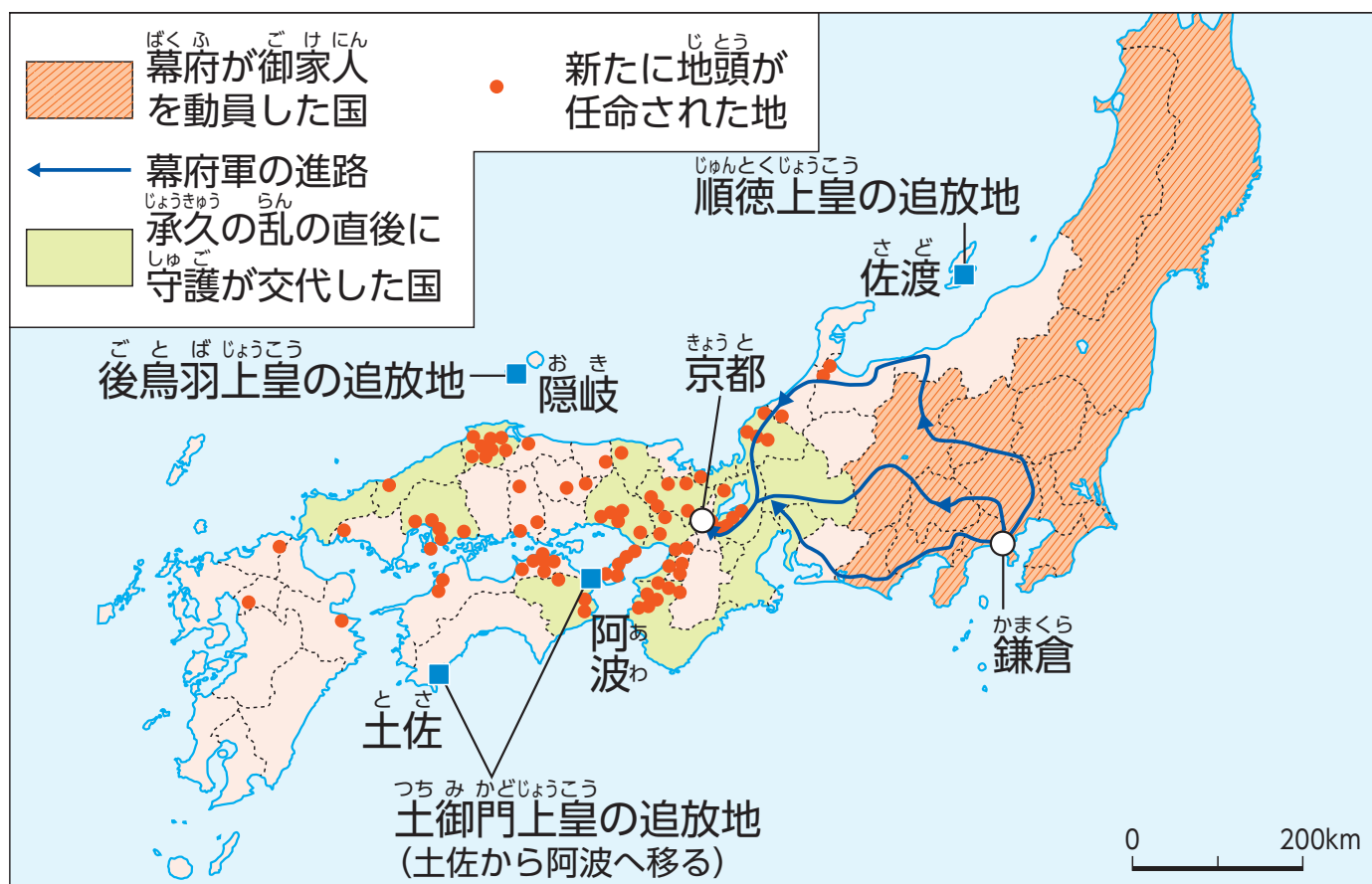
4 鎌倉幕府のしくみ(13世紀前半)



5 北条氏の系図と源氏との関係

源氏の将軍がとだえた後も、
将軍は9代まで続きました。

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。



6 承久の乱と、その後の動き



7 北条政子(1157～1225)〈安養院蔵〉

頼朝の死後に出家し、やがて自ら幕府の政治を取り仕切ったので、後に尼将軍とよばれました。



8 北条政子の訴え(『吾妻鏡』より一部要約)

みな心を一つにして聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が朝廷の敵を倒し、幕府を開いて以来、官位や土地など、その御恩は山よりも高く海よりも深いものです。その御恩に報いる志が浅くてよいはありません。ところが今、朝廷から、執権の北条義時を討てという命令が出されました。名誉を大事にする者は、上皇に味方する武士を倒し、幕府を守りなさい。

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

西国に進出した御家人と莊園領主との間では、土地や年貢をめぐる争いが増えました。1232(貞永元)年に、執権の北条泰時らは、御家人に関わる裁判を公平に行うための基準や、守護や地頭の役割を、御成敗式目(貞永式目)⁹に決めました。その内容は、公家とは異なる武家社会の慣習や、頼朝以来の裁判の例などに基づく現実的なもので、その後も長く武家政治の手本とされました。



^{ご せいばいしきもく} 9 御成敗式目(一部要約)

- 諸国の守護の職務は、頼朝公の時代に定められたように、国内の御家人をおおばん きょう と ご しょ けい びを大番(京都の御所の警備)にあたらせること、謀反や殺人などの犯罪人を取りしめることである。
- 地頭は、^{しょうえん} 莊園の年貢を差しおさえてはいけない。
- 20年以上^{けいぞく} 継続してその土地を支配していれば、その者に所有を認めろ。
- 女子が養子をとることは、^{りつりょう} 律令では許されないが、頼朝公の時代から現在まで、子のない女性が土地を養子にゆずり^{あた} 与えることは、武士の慣習として前例は数え切れないほどある。

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

確認



しょうぐん ご け にん ご おん ほうこう
将 軍と御家人の「御恩と奉公」
の関係を図に表して確かめよう。

表現



じょうきゅう ばく ふ
承 久の乱の後、鎌倉幕府はどの
ように支配を広げたか説明しよう。

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。